

FOMCを受けての日米株式・リート市場

利上げの終わりが近づいているとの市場の見方は変わらず

2022年12月15日

結果発表直後に米国株・リートは下落したが、波乱はなし

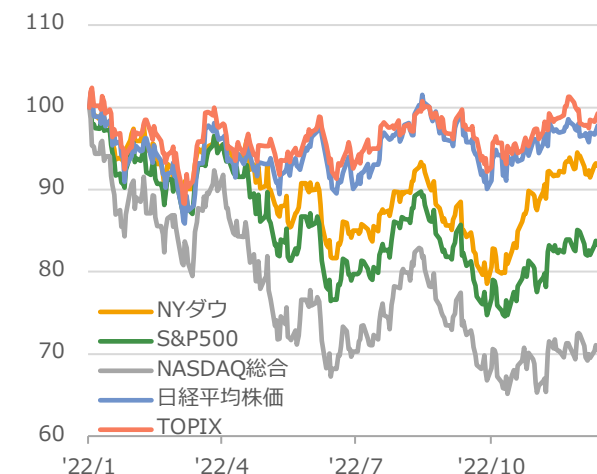
FRB（米国連邦準備制度理事会）は12月13-14日（現地）に開催したFOMC（米国連邦公開市場委員会）で、政策金利の誘導目標レンジを3.75～4.0%から4.25～4.5%へ引き上げることを決定しました。前回（11月）のFOMCと比べると、利上げは0.75%ポイントから0.5%ポイントへ縮小しています。

結果発表直後に米国株は下落しましたが、事前に利上げ幅縮小期待で強含んでいた反動でしょう。米国株は過去半年ほど予想利益の下方修正が続いているため、まだしばらくは利上げによる景気や業績への悪影響を懸念する展開となりそうです。しかし、利上げの終わりが視野に入ってきたため、過度な悲観に振れることはなく、その後の利下げへの期待も生じてくると思われます。国内株に関しても最近予想利益が若干下方修正されていますが、PER（株価収益率）の割安さが十分な下値支持材料になると考えられます。インバウンド需要の回復などで、日本の景況感が相対的に安定している点もプラス材料とみられます。

米国リートも結果発表直後は下落しました。米国リートは金利の上昇が嫌気され4月から10月にかけて大きく下落しましたが、その後は金利が低下したことや配当利回りが高まってきたことで、投資魅力が回復しつつあると考えられます。国内リートに関しては、金利を配当利回りが大きく上回っている点が価格の底堅さにつながっていると考えられます。当面は公募増資の増加による需給悪化に注意する必要がありますが、引き続き配当利回りの高さに着目した投資資金の流入が継続すると予想されます。

日米主要株価指数

（2022年1月初～2022年12月14日）



※起点を100として指数化

（出所）ブルームバーグ

日米リート指数

（2022年1月初～2022年12月14日）



※起点を100として指数化

（出所）ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management